





せんだい支えあいのまち推進プラン中間評価(個別事業評価)

## 参考資料

【事業名】14. 地域ケア会議推進事業(区地域ケア会議)の実施									
行政側の自己評価	事業実施	A	評価の理由	課題への取組	B	評価の理由	連携への取組	A	評価の理由
			オンラインと集合のハイブリッド方式での開催や書面開催など、開催方法を工夫しながら全区で会議を実施することができた。			一部書面開催の区もあり課題の十分な検討までは至っていないが、会議の中で地域包括支援センターにおける地域ケア会議(個別ケア会議・包括圏域会議)や各区で主催する他会議の報告を行っている区も増えており、一定の成果は得た。			会議委員は要綱に定められている機関から3年の任期で推薦されているため、連携先の拡充は行っていない。会議の開催にあたり、各区において委員をはじめとした関係機関と事前説明や打ち合わせを行うなど、必要な連携を取っている。
アンケート先1	事業実施	≡	評価へのコメント	課題への取組	△	評価へのコメント	連携への取組	≡	評価へのコメント
			コロナ禍の中、オンラインが難しい委員には集合して頂きハイブリット方式を活用し、発表・グループワークと充実した会議が開催できたことは評価されると思う。			地域ケア会議で出された課題への取りくみではないが、参加委員全員に事前アンケートを行い、各委員が抱えている課題をグループ討議できたことは一定の成果があげられたと感じている。一方で包括ケア会議や個別ケア会議との連動が不明瞭で分かりにくいという課題も感じている。			行政との評価に相違なし。
アンケート先2	事業実施	▼	評価へのコメント	課題への取組	≡	評価へのコメント	連携への取組	≡	評価へのコメント
			包括支援センターも含め参加各団体とも忙しい中で開催されていると思うが、年1回の開催では、課題の多い、そして内容の濃い地域ケアのあり方を議論するには時間が足りなすぎる。(最低年2回位は必要)			区地域ケア会議の中で話し合った課題について、各包括支援センターで持ち帰り、地域に合った内容で検討し、今までどおり活かされていると思われる。			仙台市の地域ケア会議推進事業を推し進めて行く上では、各関係機関・団体の連携は網羅されていると思う。問題は、各関係機関・団体との連携が日常的に図られているかだと思う。
アンケート先からの事業への課題		【アンケート先1】 生活支援体制づくりに向けた仙台市の課題認識や解決の方向性について示され、共通の認識を持って会議に参加できるとより良い検討につながるのではないか。 【アンケート先2】 地域ケア会議推進事業（区地域ケア会議）が形式だけに終わらず、地域に根ざした事業となることを期待している。							
アンケート先からの事業への要望		【アンケート先1】 各種の地域ケア会議を開催していく中で、個別事案の検討から制度・政策につながる過程が不明瞭。							



【事業名】16.認知症カフェの推進								
行政側の自己評価	事業実施	A	評価の理由	課題への取組	B	評価の理由	連携への取組	A
			感染症対策をしながら工夫して再開している認知症カフェが半数以上と増え、また、新規開設したところもある。認知症カフェを再開するにあたっての課題や運営の悩みを抱えているところが多いため、引き続き、情報共有、意見交換の場を設けていく必要がある。			コロナ禍により、認知症カフェの運営に困難さが生じている。認知症カフェの継続・再開という課題に対して、ワールドカフェ方式のディスカッションの場や県内・県外の認知症カフェ運営者による事例報告の場を設けた。		
アンケート先評価	事業実施	≡	評価へのコメント	課題への取組	≡	評価へのコメント	連携への取組	≡
			行政との評価に相違なし。			行政との評価に相違なし。		
アンケート先からの事業への課題		認知症カフェの在り方もコロナにより変わり、カフェの運営を大きく左右した。 お茶のみ以外でも楽しめる場の創出に苦労する。						
アンケート先からの事業への要望		様々な提案を頂けるが、時には机上の空論もあり現場主義であって欲しい。 (のぼりなどにお金をかけるのであれば、消毒液の配布などが良かった。)						











【事業名】20.地域のボランティア育成講座									
行政側の自己評価	事業実施	B	評価の理由	課題への取組	A	評価の理由	連携への取組	B	評価の理由
			130名受講。各区・支部でそれぞれの地域課題を踏まえ講座を開催し、活動の意義や心構えについて理解を含め必要な技術、知識を伝えた。			コロナ禍での地域の状況を確認し、連携して企画、実践に取り組んだ。			講座の内容に合わせて連携団体を調整し開催することができた。
アンケート先評価①	事業実施	△	評価へのコメント	課題への取組	÷	評価へのコメント	連携への取組	÷	評価へのコメント
			ボランティア人口が減少し、また、ボランティアの意識が変わってきている中で、さらに趣向を考えながら養成講座を行なっている。			コロナ禍で、いろいろな施設や企業が受け入れない状の中で、届けるボランティアは、施設に行かなくても手作り品を造って高齢者。子供たちに届けるボランティアをしています。			コロナ禍で、他団体と連携は、難しかった。
アンケート先評価②	事業実施	÷	評価へのコメント	課題への取組	÷	評価へのコメント	連携への取組	÷	評価へのコメント
			・評価に相違はない。 ・広報誌に登録したが、その後のリアクションがなかったため、マッチングや効果がどれぐらいあったか分かると良い。			・評価に相違はない。 ・コロナ禍で受入先がないといった状況も見受けられた。			・評価に相違はない。
アンケート先評価③	事業実施	÷	評価へのコメント	課題への取組	?	評価へのコメント	連携への取組	÷	評価へのコメント
			人数目標も大切な要素ではあるが、「育成」後の活動こそ本来の目的であると思う。数よりもその先の活用→活動への展開に繋げていただきたい。			HPを確認したが、連携先や企画内容が分からず「？」とした。			どのような連携内容なのか具体的な記載があると良い。
アンケート先からの事業への課題			【アンケート先1】大学生や主婦は働くことが忙しく、ボランティアの余裕はないので、また定年の年齢も長くなり、リタイヤーしてボランティアをするひとは少なくなっています。ゆえに小学校高学年、中学生などが出来るボランティア養成講座を考えては。 【アンケート先2】ボランティア養成講座についての事業であるが、その後のアテンドがどうなっているかが不明。 【アンケート先3】推進プランの冊子を見ると、事業一覧に「ボランティア」に関するものが多数出てきます。一見するとそれぞれがバラバラに動いている印象を受ける。 育成からどのように実活動に繋がっているのかの数値化、実績が知りたい。また、市とは別々に個別で動いているボランティアについての実数の把握や、情報共有の場の創設も必要と考える。 繰り返しになるが受講者の数を増やすのではなく、【活動できる人】を増やす事業であってほしい。						
アンケート先からの事業への要望			【アンケート先1】75歳以上の高齢者の中でお元気な方は、ボランティア活動をする事ができるし、生きがいとしている人もいるので、高齢者（後期高齢者）でも出来るボランティア講座があると良い。 【アンケート先2】ICT化で実施して欲しい。データでやり取りした方が効率的ではないでしょうか？ また、育成について仙台市として共通のカリキュラムを作り、各大学と協業で実施してはどうか？ 【参考】「当別町共生型ボランティア養成講座」大学、地域の社会福祉法人と連携して実施。有料のものもある。そろそろ『シルバー人材センター』との違いや役割を整理する必要もあるのではないのでしょうか。						